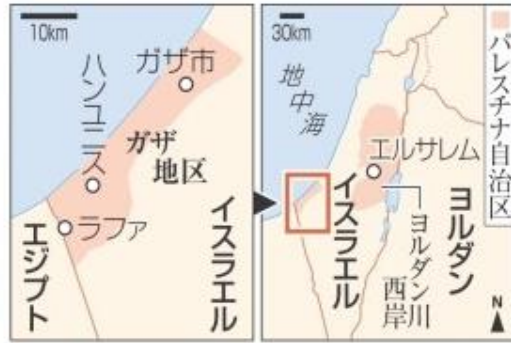


左の記事を読んで、下の問いに答えましょう。



ガザでカメラを持つマリラム・アブ
 ダッガさん(家族提供・共同)

記者への攻撃、ガザで相次ぐ



ガザ南部ハンユニスの避難民テント。リヤド・アブダッガさん(66)が涙をため、亡くなった三女マリムさん(33)の写真を見つめた。

AP通信の契約カメラマンだったマリムさん。仕

「伝え続ける」決意新た

戦闘が続くパレスチナ自治区ガザで地元記者に対するイスラエル軍の攻撃が相次いでいる。8月には南部の病院への時間差攻撃で、駆けつけた記者ら約20人が犠牲になった。戦闘開始から来月7日で2年。記者仲間には自らの危険を感じながらも「報道を続ける」と決意を新たにしている。

事の拠点だったハンユニスのナセル病院が8月25日に攻撃された。リヤドさんが慌てて向かうと、病院の外階段で撮影するマリアムさんがいた。「目が合い、互いに笑顔で手を振った」。安心して自宅へ戻ろうとした際、次の攻撃があった。

ガザ当局によると、戦闘開始後に死亡した報道関係者は約250人。外国人記者の入域が原則認められない中で頻発する地元記者への攻撃に、国際社会は批判を強める。

8月27日の国連安全保障理事会。アルジェリアの国連大使はマリウムさんの写真を掲げ「彼女が武器を持っていたとすれば、それはカメラだ」とイスラエルを非難した。

病院の集中治療室（ICU）に女性が運ばれた。「顔に粉じんがこびりつき、誰か分からなかった」。リヤドさんは白い靴とブレスレットからマリামさんだと気づいた。娘の背中に過去の取材現場で付いたとみられるあざや切り傷があるのも知っていた。「希望を失った」とうなだれた。

病院は最初の攻撃から約10分後に2回目を受けた。報道陣や救助隊が集まったところで被害拡大を狙う「ダブルタック」という手法だ。イスラエル軍は、イスラム組織ハマスの監視カメラが標的だったと主張した。

8月10日には北部ガザ市の報道関係者用テントに砲

ムサさんは「記者が攻撃を受けるたび、次は自分ではないかと感じる」と打ち明けた。それでも言い切る。「伝えなければならぬ声がたくさんある。私たちがやらなければ誰もいない」

「飢餓が広がりつらいときも、マリアムは周囲を励ましていた」。フリー記者のワラ・ムサさん(31)が振り返った。マリアムさんら女性記者9人で部屋を借り、共同生活していた仲間だった。

マリラムさんは戦闘開始直後、息子ガイスさん(13)をアラブ首長国連邦(UAE)に避難させていた。生前、ガイスさん宛てに「私が死んでも泣かないで。忘れないでね」とのメッセージを寄せていたという。

(ハンユニス共同)

戦闘開始2年、報道関係者250人犠牲

1 傍線部①の目的は
何ですか。本文中から1
文で抜き出し、最初の3
文字を書きましょう。

--	--	--

2 国際人道法では病院も記者も保護の対象となっていますが、イスラエルは攻撃しました。何を攻撃目標にしたと言っていますか。9文字で抜き出しましょう。

The number 9 is represented by a ten frame with 5 squares in the top row and 4 squares in the bottom row, with 5 additional squares to the right of the bottom row.

3 傍線部②で、報道を続ける目的は何ですか。本文中から1つの発言を抜き出し、最初の3文字を書きましょう。

--	--	--

NIEワークシートのこたえ（2025年9月11日公開）

◆ワークシート「記者への攻撃(社会)」 2025.9.11付 夕刊 5面 解答

- 1 報道陣
- 2 ハマスの監視カメラ
- 3 伝えな